

### 学びとの出遇い

八年前の父の葬儀に際し、葬祭場の方から「ご宗旨は？」と聞かれ、「浄土真宗？ですか？」当時、自信のない返事しかできず、初めての葬儀で、全てが分からないまま、言われるがままに葬儀を終え、中陰、四十九日の仏事を終えた頃から私の心の中に多くの疑問が残り、果たして色んな催し事にどんな意味があるのか考えるようになり、仏教の学びが始まりました。

しかし、今さら聞けない真つ白な状態なので、最強の味方であるインターネットを駆使し浄土真宗とは何かを初歩から学び始めました。まず、初めに驚いたことは、浄土真宗のご門徒さんは、朝に夕なに「正信偈」なるものを称えるとのこと。早速、本願寺出版社で

「勤行集・得度習札用CD」を購入し練習開始。三か月過ぎた頃、うにか称えられるようになり、楽器で確認するが違ふ！のです。間違いなくCDの音源で覚えた筈なのに音階が合っていない？勤行集には間違いなく書いてあるのに。そこで、再度、調べて見るとナント！出音は、ハ調のレではなく雅楽の音階である「老越」であることが判明。楽器の音階とは違ふという事にやっとたどり着き、こんな調子でよちよち歩きが始まりました。

浄土真宗門徒の初心者としてスタートするにあたって気をつけたことは、正しい知識を得るには、多くの情報から取捨選択すること。ですが、初心者の私には到底無理なことなので、書籍は必ず本願寺出版社から購入、インターネットでは、浄土真宗本願寺派のご住職

や布教使のHPから知識を得ることでした。半年後、あるご住職から拙寺でのご法話があるのので来ませんか？のお誘いを受け、初めてお話しによるご法話を聴き、そして、後日、「法名」は、生きていくうちにご門主からいただくものですよ！と教えていただき早速、ご本山へ行き、御影堂で帰敬式を受式。

その後、インターネットと書籍による学びが続くなか、しつかりと学ぶ方法がないか調べていると、中央仏教学院の通信教育で体系的に学べることを知り、平成二十四年秋、阿弥陀堂での入学式に臨み、当時の白川学院長から「三年間を通じて、自分の愚かさ気づく学びを」の祝辞から三年間の学びがスタートしました。

別府別院、福岡教堂そして、広島別院へとスクーリング・学習会等へ出かけ、平成二十

七年十月、ご本山での感動の卒業式を終え、今では、レポート提出に苦労したことが懐かしく思い返されます。

卒業後は、学びをどうするか、テキストの再復習から！と思うのですが、うまくいきません。学ばなければ、学んで成長しなければという気持ちだけが空回りし焦るばかりの日々が続くなか、今年の御正忌報恩講の特別講演で「願いに生かされて」森田真円勸学のご法話を聴き目から鱗でした。

「阿弥陀様は成長したあなたを待っているのではありません、たつた今ここで、あなたを救い取るのです」YouTube で閲覧可能

学びで成長しようとする自分の計らいを期待するのではなく、阿弥陀様の慈悲、大悲の心を学ぶのだということが分かるのですが、これもまた難しい。理解できないことばかりに



平成二十六年度  
学習課程卒業生  
大分県豊後高田市  
榎本

仏教は、不可称不可説不可思議のゆゑにと分らないことに納得？しているのですが。

浄土真宗のみ教えは、「阿弥陀仏を信じて、救われ、浄土に往生して仏になる」のではなく、「阿弥陀仏に救われて、浄土に往生して、仏になることを信じる」のです。「歎異抄のことば」玉木興慈著より参照

これからも、ゆっくり、じっくり「学び」の道を歩みます。

### 出会い

40年近く前、近所の真宗大谷派のお寺の奥さんと知り合ったのが、きっかけで熊本にある「青年かけ込み寺」と言われていたお寺との出会いがありました。当時、若者特有の先が見えない日々を悩んでいた私は、文字通り、かけこみました。

前に「つどい」のお世話もなさっていた原さんとともにそこでお会いしました。

そのお寺には10数人の若者が住んでいて、朝のおつとめの後は、仕事に行く者、学校に行く者、さまざまでした。私は食事作りが主でした。夜は仏教の勉強をしたり、語りあつたりの生活で、私にとつては、お寺と仏教を身近に感じた日々でした。お寺には、専修学院（西では中央仏教学院）で

学び、僧侶の道に進んだ人も何人かいました。私はそのままお寺に住んで仕事をするといい選択肢もありましたが、両親のことや、その他の事もあり、熊本に行く機会は減ってきました。

今は年に1度行つてます。今はもうありませんが、東京専修学院の学院長をされていた宗正元先生の講義を受けるためですが、90歳になられた先生です。年もお元気なのだと安心し、なつかしい人に出会える楽しみもあります。

お寺も代替わりし、今は当時の住職さんのお孫さんが住職さんです。この住職さんご夫妻がよくできた人達なので私も気がねなくお邪魔しています。

本堂も何十年前前の台風で倒壊し、新しくなり、庫裏も昨年の地震で倒壊してしまい、今、建築中です。

昔の面影は  
少なくともありました。私にとつてはありがたい出会いの場所です。所属寺の住職さんから中仏で学びませんかというお話があつた時は、これも縁かなと思ひ迷いもありませんでした。

中仏に入学し、卒業しました。「南無阿弥陀仏」の念仏が湧き出づる時はまだまだ遠いところにあります。

別府市 南立石  
高橋 敦子



妙念寺（佐賀県）  
電話相談  
インターネット法話  
より

ものを取りに部屋に入つて  
何を取りに来たのか忘れて  
戻ることがある。  
戻ることがある。  
ハタと思ひ出すことがあるが  
その時はすばらしい。  
身体が先にこの世に出  
てしまったのである  
その用事が何であつたか  
いつの日か  
思い当たる時のある人は  
幸福である  
思ひ出せぬまま  
僕はすこすこあの世へ  
戻る

杉山平一という方の詩です。  
人間誰もが、意識してこの世に生まれてきた人はありません。  
気づいた時には、この世に人間として、生まれていました。  
何の予備知識もないままに、生まれてきて、何がその用事であるのか、何のために

人間に生まれてきたのか、それが分からないままに、一生を終えてしまふのが  
わたくしたちではないでしょうか。  
忘れたことを思い出すように、気づいた人は、すばらしいことです。  
しかし、それに気づかず、何かもやもやとした人生をおくっている人が多いようです。

蓮如上人は、ご文章でこのように仰せになつています。

南無阿弥陀仏の  
真実信心を頂けなければ、  
いならば、  
せっかく人間に生まれてきて、宝の山に入りながら、手に何も持たずに帰るようなものであると、  
おっしゃっています。



# 大見出しを入力します

## 小見出しを入力します

白抜き2行の  
見出しです



絵解き (キャプション)



絵解き (キャプション)

白抜きの見出しです

この枠は2行  
入力できます

この枠は2行  
入力できます